

かたつむい通信



令和5年度 第2号2023年7月発行



オニコリ
撮影：井澤清明さん

エコまつり・めぐろ2023 開催 「めぐろから始めよう！環境にやさしい未来」

エコまつり・めぐろ2023は、現在、開催に向けて準備を進めています。6月7日現在、32団体が参加予定です。皆さまのお越しをお待ちしています。

- 開催日時
11月12日（日）10：00～15：00
- 場所
田道ふれあい館1階～3階、
田道広場公園



新型コロナウイルス感染拡大状況に遠慮対応し、状況に合わせた感染予防対策を講じて開催します。

「水の国日本」に住む私たちの暮らし ②

集中豪雨と温暖化について



今年の西日本から東海の梅雨入りは早かったですね。なんと5月中に梅雨に入ってしまった。梅雨入り直後6月頭の西日本～東海～関東の豪雨は凄まじいものがありました。

梅雨時期に集中豪雨が多発

従来、梅雨はシトシト雨が降るイメージでしたが、近年梅雨時期の豪雨被害が多くなりました。2020年の熊本、広島、2021年の熱海、数年毎の豪雨災害は記憶に新しいです。

一口に豪雨災害といってもいくつかの種類があります。都市では、道路舗装などで雨水が浸透しないので、短時間の豪雨でも一気に水が溢れます。都市を流れる川は、すぐに警戒水位に達しますし、アンダーパスなど道路の低いところは冠水して車が立ち往生したりします。一方、山間部や山が近いところは、豪雨と言えない程度の強い雨(1時間に20～30mm)であっても、長時間降り続くことで土砂災害の要因になります。特に「線状降水帯」が出来ると、強い雨が長時間続きます。これは、風向きと水蒸気の流入によって同じ場所で次々と強い雨雲が発生する現象で、レーダー画像で強い雨域が線状に並ぶのでこう呼ばれます。最近では山林が切り開かれて樹木による保水力が失われたり、稜線の変化による雨水の流入量の変化があったりして被害が大きくなるという研究もあります。また、自分のところではさほど降っていないくても、上流で大雨が降ることによる河川の氾濫もあります。2015年9月に、鬼怒川が氾濫したのはこの例です。このように、豪雨災害は地形によっていろいろな形で起きますから、普段から水害ハザードマップを確認する習慣をつけたいものです。

大間 哲(おおま てる) 気象予報士・防災士

地球温暖化を巡る議論

近年のこういった豪雨災害は、地球温暖化によって以前より多くの水蒸気が日本上空に流入しやすくなったからだともいわれます。平均気温の上昇やCO₂濃度を見ても、温暖化は確かに起きています。しかし、こんなことをいう人もいます。「ジュラ紀の頃の方が、気温も10℃以上高く、CO₂も多くて生物に適していたよね?」、あるいは「化石燃料のCO₂って、もともと大気中にあったものでしょ?」、「そもそも、温暖化は人類が石油を燃やしたからとは限らないんじゃない?」それぞれ、間違っていない。しかし、温暖化を考えるときに大切なのは、恐竜ではなく「私たちにとって適切な地球環境を保てるか」ということです。

温暖化が、人類が化石燃料を燃やしたため(人為説)なのかどうかは、科学者の間でも結論は出ていません。ある人は太陽の働きの変化の影響だといいます。仮にそうであっても、私たちが太陽の変化を留めることができない以上、SDGs13の目標にあるように「気候変動及びその影響を緩和する」ための努力は必要です。温暖化の要因が何であるにかかわらず、私たちが、日々、エコに取り組み、エコの意識を広げていくことは、大切なのです。

■プロフィール 法政大学 キャリアデザイン学部講師。「誰一人取り残されない社会」を目指してIT業からキャリアカウンセラーに転職。その傍ら、気象予報士として、環境教育や気象・防災のセミナーなども開催。

令和4年度 エコライフめぐろ推進協会事業報告及び決算書

令和4年度（2022年度）を終えて

令和4年度（2022年度）は、新型コロナウイルス感染症流行の波が何度かありました。

基本的感染対策には万全を尽くし、事業運営に努めました。令和4年度は「めぐろスマートライフ」などウェブサイトによる情報発信に注力するとともに、「環境講演会」や「エコまつり・めぐろ2022」など区民等に参加いただいた事業も実施することができました。一方で、環境保全団体への助成などには応募団体がありませんでした。区民等の環境保全活動はコロナ禍以前のようにできていないようです。

このような中、協会では、ホームページやめぐろスマートライフのウェブサイトの特性を活かした運用に努めるとともに、外部のウェブサイトとリンクするなど幅広い情報発信に引き続き取り組みました。

令和3年4月から常設した「フードドライブ」の窓口は、区民等に認知されてきており、寄付された方、受け入れ食品の数などは増えています。フードドライブへ寄付された方一人当たりで見ますと、持ち込み点数、重量ともに令和3年度を下回っていることから、広く区民等にこの取り組みが知られ、食品ロス問題に関心を持たれてきていると感じています。

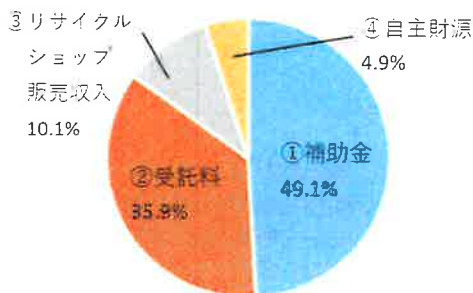
新型コロナウイルス感染症は収束には至っていない状況ではありましたが、目黒区エコプラザ指定管理事業についても資源・エネルギー有効利用、環境負荷の低減に関する講座開催、区民等の活動支援及び情報提供などに取り組んで参りました。目黒区エコプラザ指定管理者運営評価委員会からの要望や指摘、利用者等の声を踏まえ改善に取り組むとともに、施設の適正かつ効率的な管理運営に努めました。リサイクルショップでは、緊急事態宣言等の発令に伴う休止期間はなかったものの空調工事による休止が約1月間ありました。ショップ収益は、その影響のほか人の出控えなどもあり、コロナ禍前の水準には戻っていません。令和5年度には、原則行動制限等がなくなることから、様々な催しなどにより収益増を目指して参りたいと考えています。

令和4年度は、徐々にではありますが日常が戻って参りました。まだまだ新型コロナウイルス感染症の完全収束は見通せない状況ではありますが、令和5年度は従前のような事業運営ができるよう、職員共々創意工夫に心がけて事業に取り組んで参ります。

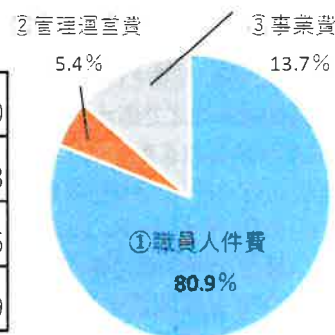
令和4年度決算報告概要

理事会において、令和4年度事業報告及び決算が承認されました。

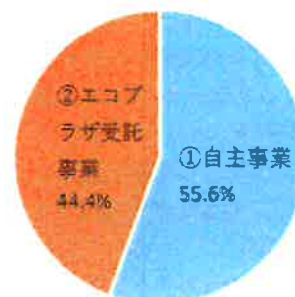
収入内訳（財源別）	（千円）
①補助金	36,872
②受託料	27,000
③リサイクルショップ販売収入	7,573
④自主財源	3,691
収入合計	75,136



支出内訳（費目別）	（千円）
①職員人件費	57,260
②管理運営費	3,803
③事業費	9,716
支出合計	70,779



支出内訳（事業別）	（千円）
①自主事業費（団体運営費を含む）	39,378
②エコプラザ指定管理事業受託事業費	31,401
支出合計	70,779



令和4年度 エコライフめぐろ推進協会の主な事業の報告

スマートライフでの情報発信

「めぐろスマートライフ」では省エネルギーや資源の有効利用など、環境にやさしい行動を、賢く、楽しみながら実践していくライフスタイルを誰でも・楽しく・簡単にできる情報をウェブサイトから発信しています。

令和4年度は、56本の新しい記事を配信しました。区民等のライター（ecoライフライター）にも区民目線からの身近でエコな記事が寄稿されています。

アクセス解析によると20代から40代の閲覧が最も多くなっています。若い世代の環境への意識の高まりとともに、この世代が興味を持てる

めぐろ
スマートライフ



記事を意識的に取り入れたことや「フェイスブック」や「クックパッド」、更に環境省や東京都環境局が運営するサイトへ情報掲載したことなどが効果的であったと推察しています。

フードドライブの常設

我が国の1年間の食品ロスは約522万トン（令和2年度農水省推計値）を超え、このうち家庭からのものは約247万トンといわれています。協会では、環境面から家庭系の食品ロスに着目して活動しています。令和3年度から窓口を事務局に常設し食品の受付、食品ロス削減の啓発等を行っています。常設窓口も開設2年目を迎えました。

令和4年度は、9,531点、2,067kgもの食品の寄付を受けました。これは令和3年度と比べると、寄付品数で約1.71倍、重量で約1.38倍です。持ち寄っていただいた方の人数は、438人で、これは令和3年度

に比べ1.96倍であることから、食品ロスに対する区民等の意識は広まっているものと推察しています。寄付いただいた食品は、区内の福祉施設などへ配布いたしました。

今後もフードドライブの取り組みをとおして、食品ロス削減の啓発等を行って参ります。



エコまつり・めぐろ2022 3年ぶりに開催

エコまつり・めぐろ2022は「わたしが我が家のエコレンジャー」をテーマに3年ぶりに開催しました。開催にあたっては、基本的な感染対策、開催時間の短縮など新型コロナウイルス感染症対策を徹底しました。各出展ブースにSDGs（持続可能な開発目標）の17目標のアイコンを掲げ、アイコン探しをとおして私たちの暮らしや環境問題に関わる「SDGs」について学んでいただきました。例年は、高齢者の参加が多い

傾向でしたが、今回は若い家族連れの方が多く見られました。3時間の開催時間ではありましたが、最後まで来場者が途切れることなく賑わっていました。



出前講座の開催

3R（リデュース・リユース・リサイクル）について小学生が深く理解し、実践を促すための出前講座です。令和4年度は、希望のあった小学校には出前講座を実施しました。新型コロナウイルスの影響で出前講座は下目黒小のみでしたが、不動小へのオンライン授業や田道小のエコプラザ見学などに応えました。

また、依頼のあった児童館等へ出向き子育てをする親子を対象に楽しくエコライフが送れるよう、そのきっかけづくりのための講座を実施しました。

環境推進委員養成講座

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のもと、3年ぶりに開講しました。講座開始に先立ち、企画運営委員会を立ち上げ、講座の方向性や内容などについて検討しました。

今期（13期）は7名の方が修了し、修了証を交付しました。

この講座修了者はエコサポーター登録後に環境保全活動を行うことにより環境推進員に登録できます。コロナ禍により環境保全活動が十分にできない状況が続いていることから、コロナ禍前の令和元年度に修了した第12期修了生については、対象となる活動期間や申請期限を令和5年度までの活動等を対象とすることとしています。

製品プラスチックの資源回収が始まります

令和5年7月1日から製品プラスチックの資源回収が始まります。目黒区では、今まで燃やすごみとして収集していた製品プラスチックを新たに資源として回収しリサイクルすることで、ごみの減量や二酸化炭素の発生抑制を目指します。清掃リサイクル課と清掃事務所が行った区民への説明会では、参加者からたくさんの質問があり、資源回収についての関心の高さが感じられました。

新たに資源として回収する製品プラスチックは、すべてがプラスチックでできている一辺がおおむね30cm未満・厚さ5mm未満のものが対象となります。皆さんも、正しく分別して、製品プラスチックの資源回収にご協力ください。



詳しくはこちらをご覧ください！

プラスチックの資源回収について記載された新しい「資源とごみの分け方・出し方」（令和5年度版 令和5年7月1日から）が、めぐろ区報6/15号と一緒に各戸に配付されています。目黒区エコプラザでも配布しています。

モバイルバッテリー、電子・加熱式たばこ、スマートフォンなど（小型充電式電池を内蔵しているもの）が資源に混入すると、清掃車リサイクル処理施設での火災の原因になってしまうので、絶対に資源回収には出さないでください。



回収される製品プラスチックの例

- ・文具、おもちゃ、定規、クリアホルダー、CD/CDケースなど
- ・台所用品（保存用容器、コップ、食器、スプーン、ストローなど）
- ・その他の日用品など（バケツ、ハンガー、歯ブラシ、プランター、くしなど）

プラスチック資源にならないものの例

- ・汚れが落ちないもの
- ・一辺がおおむね 30cm以上のもの
- ・プラスチック以外の素材が混じっているもの（金具やねじなどの金属部分があるもの）
- ・モバイルバッテリー、電子・加熱式たばこ、スマートフォンなど（小型充電式電池を内蔵しているもの）
- ・刃物、ライター、在宅医療用器具など
- ・ビデオテープ、カセットテープなど
- ・プラスチック製のまな板などで厚みが 5mm以上あるものなど

協会会員コラム

エコプラザのボランティア活動で得たもの

協会会員 島田悦子さん

ボランティア歴は20年くらいでしょうか。家の近所に田道ふれあい館ができ、最初は高齢者センターでボランティアをされていて、「教えるほうになったら」と誘われてエコプラザでもボランティアをするようになりました。

児童館や小学校の出前講座で牛乳パックを使った工作や紙すき体験などのお手伝いをしています。子どもたちと接することで、こちらが元気をもらっている気がします。児童館では就学前の小さなお子さんと保護者の方が一緒に作品を作りますので、私たちボランティアは最初からあれこれ手を出さなくて、どうしてもうまくいかないときだけ手を差し伸べるように心がけています。作品によってはカッターや千枚通しなどを使うこともあるので、危なくないように見守ることもしています。ボランティアをされていて楽しいのは、参加された方が作品を完成させて喜んで持って帰る姿を見たときです。

出前講座では私も勉強させてもらっています。例えば、バスボム作りの講座では、クエン酸や重曹でエコなお掃除ができることを職員の方が紹介したりします。私もお掃除するときはエコプラザでクエン酸や重曹を購入して、できるだけ化学的なものは使わないようにしています。エコプラザでは衣類回収もしていますので、着なくなったお洋服を持ってきたり、お友達に「ここに持って来れば、洋服をごみにしなくてすむのよ」と伝えたりし

ています。

目黒川沿いに住んでいるので川の水質は気になります。今日もエコプラザまでの道すがら川を見ると、すごく濁っていました。オイルボールがあたりするのを見ると、家から流す排水にも気を付けなくてはと思います。

コロナ禍でほとんどの出前講座が休止になっていたのですが、6月には久しぶりに児童館の出前講座のお手伝いをしました。参加者には牛乳パックで「おさんぽワンちゃん」を作ってもらいました。出前講座で子どもたちの元気な笑顔を見たり、お話をしたり、職員の方からエコなお話を聞いたりするのが楽しいです。



0歳から3歳を対象とした「めぐろ子育て交流広場0123」でボランティア中の島田さん